

情報ステーション 第15期・2018年度 事業報告

0. 概要と組織

「そこに住む人々が、自分の街に対して誇りと愛着を持ち、風土や歴史を元に、文化の創造と経済の自立を目指し続けること」と定義したまちづくりに資する事業に取り組み、多世代交流が自然と生まれる活動を継続的に広げている。

【目標に対する実績】

- コーポレートサイトのリニューアル
リニューアルは完了。これからコンテンツ増加予定。
- 正会員数120名の達成、法人会員10社の達成
正会員は80名弱、法人会員は7社で前期と変わらず横ばい
- 正会員オンライン入会の実施
現在、業者の審査待ちの状態。来期早々には完了予定。
- 会員のバリエーション増加の検討
会員バリエーションは増やさず、季刊誌のサポーター制度を新設した。

0-1. 理事会

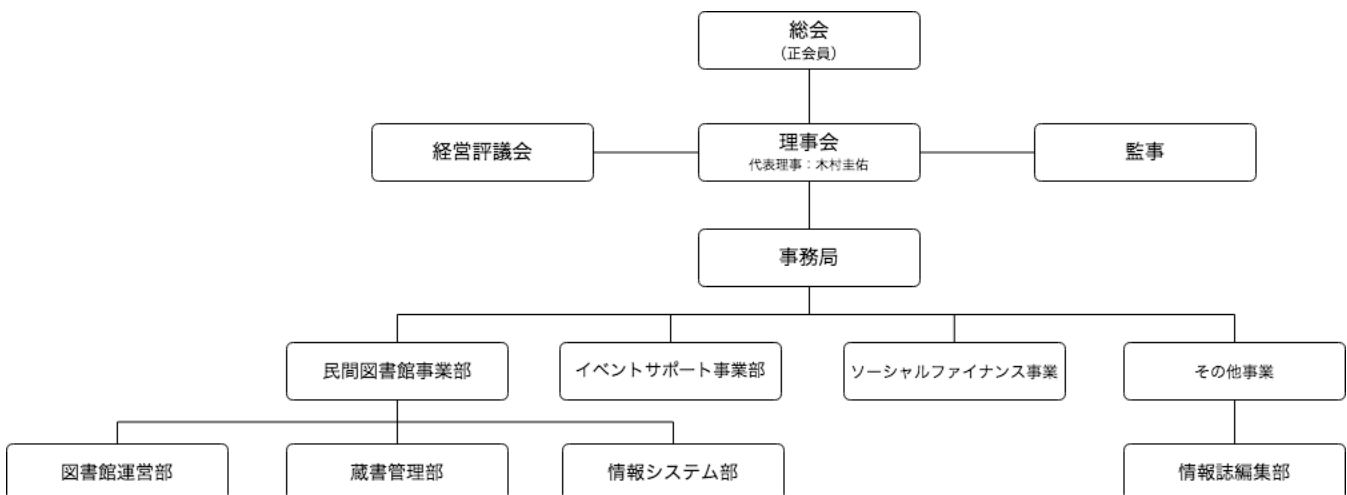
新たに3名の新任理事を迎え、機能的な理事会運営に取り組み営業や広報について議論を深めたほか、各理事に担当領域をつけ、意思決定スピードの向上や多様な考え方を取り入れた運営を実現し開かれたガバナンスを目指しました。

0-2. 経営評議会

理事及び監事経験者を中心として組織する経営評議会においては、年4回の会議にて情報ステーションの中長期にわたる事業活動を確認してきた。

特に15期においては、理事候補者の発掘のため評議会に候補者を招き、理念や事業活動について共有した。また理事会と共催でNPOの最重要事業である民間図書館事業の価値を再定義するための意見交換会を開催した。

【組織図】



【会議体】

会議名	参加者	頻度
総会	正会員、理事、監事	年1回
理事会	理事、監事	月1回
経営評議会	評議員、代表理事、副代表理事	年4回程度

0-2. 財務

入替えスタッフの外注化や、季刊誌の発行費用等でキャッシュフローが悪化しましたが、売掛金の整理や自動引落の登録など改善に努力しました。

0-2-1. 助成金

民間図書館の空き家活用の事例を作るために、14 期に採択された国土交通省の空き家対策の担い手強化・連携モデル事業を行いました。

1. 民間図書館事業

民間図書館事業では、地域の交流空間というコンセプトを実現するため、地域の方とのつながりを増やし、またボランティアなどに関わってくれる方々の更なる活動への参加促進を目指しました。

そのためにイベント形式でだれでも気軽に参加できるボランティア DAY を定期的に行い、告知や集客方法や開催後の活動報告の業務フローを確立しました。

1-1. 図書館運営部

図書館運営部は、ボランティアのみで運営する既存館のマネージメント、既存協働館の本棚の管理、新規図書館の開設を担当しました。

【目標に対する実績】

- 図書館を延べ120館に増やす。

新規開設は7館行い、延べ館数は99館に留まった。

- Webからの問合せ件数月間10件

問い合わせは5件。Facebook 広告を出稿したがあまり相性が良くなく他媒体も活用することを検討を進める。

- 交流会等への参加（登壇）で、年間30回のPR活動を行う

交流会等への参加は10回に留まった。交流会などの情報収集不足が要因。

- クラウドファンディングを利用した図書館フローの確立

クラウドファンディングを活用する案件がなく実施できず。

- 民間図書館の価値を再定義する。

再定義に向けて意見交換会を行いました。

- 空き家を活用した図書館モデルを作る。

「平成30年度空き家対策の担い手強化・連携モデル事業」にて「大宮台ひだまりと本の家図書館」を開設しました。

- 既存協働館の本棚の管理専任職員の採用と体制の構築。

専任職員の採用ではなく外注化し、安定的な体制を構築できた。



1-2. 蔵書管理部

蔵書管理部は、本の寄贈から登録・配架・移送・除籍・販売など蔵書流通のすべてを担当し、本の流通サイクルを常に動かせるようにしました。

ボランティアDAYを定期的を開催し、より多くのボランティアに参加してもらう事ができた。

【目標に対する実績】

- 年間新規蔵書登録数 1万5千冊
年間の新規蔵書登録数は 10,123 冊。
- ボランティアDAYの週2回ペース開催を継続
週2回の開催は維持でき、リピーターも増えた。
- 助成金などを通して蔵書基地開設の検討
蔵書基地開設の検討は行ったが、最適な用地が見つからなかった。
- 書店、図書館、新聞社等との連携による寄贈本の強化
(株)図書館流通センター、(株)バリューブックスと連携ができた。
- 棚卸しの実施
船橋北口みらい図書館にて棚卸しを実施した。
- 古本市のパッケージ化
実施せず。

1-3. 情報システム部

情報システム部では、蔵書管理システム及び端末、またこれらの通信ネットワーク、蔵書検索サイト「図書館生活」などの開発・管理とこれらが持つ情報管理を担当しました。

1-3-1. 蔵書管理システム

蔵書管理システムでは、ボランティア用アプリとセルフ貸出しシステムの改善を進めました。また、各種データ入力の補助機能を向上させ、データの量と質を増やし、図書館の利用を促進する配架に活用できる基盤づくりを進めました。

【目標に対する実績】

- システムリニューアルの検討
図書館事業全体のオペレーションを見直し検討を進めている。
- 書誌データ(MARC)の整備
参照先を既存の物から国立国会図書館に変更した。
- モバイルアプリの実装
既製品のバーコードリーダーアプリを活用し、csv一括更新に対応した。
- 新規開設図書館の蔵書選定(蔵書最適化)システムのプロトタイプ実装
プロトタイプまでは至らなかったが、引き続き検討を進める。

1-3-2. 蔵書検索サイト「図書館生活」

図書館生活では「図書館をもっとたのしく便利に」の趣旨を実現するため、従来の蔵書検索機能の他に、図書館の情報発信機能を強化しコンテンツを増やす事により、各図書館の楽しさ・魅力が多くの人に伝わるようなサイト作りを目指しました。

【目標に対する実績】

- 民間図書館の価値の再定義と合わせてサイトのコンセプトやターゲットの再定義
民間図書館の価値について再定義しきれなかったため、実施できず。
- サイトのリニューアル
コンセプトやターゲットが定められなかったため、実施できず。

2. イベントサポート事業

イベントサポート事業では、地域のおまつりやイベント等の広報や事務局サポート、会場提供、ボランティアによる開催当日の運営支援などを担当しました。

【目標に対する実績】

- 会場貸出売上月間 10 万円達成
年間 20 万ほどの売上でとどまった。
- 情報発信支援部設立の検討
検討したが、リソースが足りないため延期。



3. ソーシャルファイナンス事業

地域経済の循環促進を目的とし、地域に特化したクラウドファンディングサイト「FAAVO千葉」の運営を引き続き行いました。

【目標に対する実績】

- 運営パートナー数を 10 に増やす。
パートナー誘致活動があまりできず、5パートナーに留まる。
- 年間プロジェクト達成金額 1000 万円
プロジェクト達成金額は、1,246,000 円だった。
- 起案相談会を年 6 回開催
千葉県産業支援センターとの連携でプロジェクト案件が多く回ってきたので、開催せず。
- 他媒体との連携強化
まいづれと連携

4. その他の事業

先の3事業と団体主旨の普及啓発を目的とし、フリーペーパーの発行など広報活動を行いました。

4-1. 情報紙編集部「季刊 情報ステーション」

全4回計 20,000 部のフリーペーパーを発行し、民間図書館のほか県内公立図書館や社会教育施設等での配布を行った。これにより多くの方に情報ステーションの事業や様々なまちづくりの活動を知ってもらうことができ、地域社会における多世代交流の重要性とまちづくりへの主体的な参加を啓発した。

【目標に対する実績】

- 10月秋月号、1月新春号、4月春風号、7月初夏号の4号で延べ3万部の配布を行う。協賛広告等の募集が難航し、支出を抑えるために半期で目標を下方修正し2万部を配布した。
- 広告やクラウドファンディングの収入で各号の製作費を捻出し、初夏号では赤字をなくす。思ったように収入が増えず、全号を通して赤字となった。

